

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院・	実施機関名・連携機関名 愛媛大学教職大学院 連携：松山市教育研修センター事務所
教育委員会等	事業名： NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修
コラボ研修プログラム	研修等名：【NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修】 子どもの主体性を育む探究のカリキュラムデザイン研修
支援事業報告書	開催日時：令和6年7月～令和7年2月 開催場所：アシックス里山スタジアム、しまなみアースランド（愛媛県今治市） 参加人数（総数）と参加者の属性：総数（90人）7月13日14：00～17：00 50人 （学校関係者30人、大学生8名、NPO等12名）1月26日14：00～17：00 40人（学校関係者33人、学生・大学院生4人、教育委員会関係者3名）

目的：

探究が全国的に注目され、全国の学校で課題探究や探究学習が実施されている。しかし、多くの学校でいわゆる「やらされ探究」が常態化し、主体的な学びになっていないという課題に直面している。課題や問い、学び方やまとめ、表現の形に至るまで教師主導で、教師が学びのコントローラーを握り、児童生徒は、教師が敷いたレールの上をそれに従ってこなすだけの実践も横行している。また、見栄えのよいポスターづくりやインパクトのあるプレゼン発表ばかりに時間を費やされ、問いを自ら立て探究していく姿はあまり見られない。その理由として探究に関する理解が児童生徒だけでなく教師自身にも薄く、質の高い学びを学べる場が創られていないという実態がある。そういった問題意識のもと、改善するヒントや手立てを体験的に学ぶ機会を構築していくことが喫緊の課題となっている。そこで本事業では、学びの主体である子どもたち自身に学びのハンドルを握らせ、追究意欲や探究心を向上させ、その楽しさを体験できるようなカリキュラムの構築に関して、その手立てや方法を学べる研修を実施する。具体的には、探究を学校経営の軸にして、子どもたちの問いを大事に育てている軽井沢風越学園の岩瀬直樹氏を講師として招き、愛媛県内の教職員及び教職大学院生とともに、探究のカリキュラムデザインを学び合う研修やワークショップを実施し、魅力ある単元づくりができる教員を育成することを目的とする。

内容：

講師の軽井沢風越学園校長の岩瀬直樹氏とは、一昨年度から申請者が主催する「愛大・ESD ラボ」と連携していただき、県内教員や学生を主な対象とした「深い学び」に関する研修を行ってきており、今年度はその成果を踏まえつつ、発展的に研修の質を高めていくことについて、事前の協議・打合せ（オンライン協議）を重ね、実施内容を精査して実施した。実際には、当初予定通り年間2回の研修を実施した。まず1回目（7月13日）の研修では、講師の岩瀬氏から、「学習者主体の学びを創るために必要なことは何か？」という軸となる問いを参加者に投げ掛けていただき、協議するところから始まった。岩瀬氏からは学習環境の4要素「共同体」「人工物」「空間」「活動」それぞれを工夫・改善しながら学習者中心の環境設定をしていくことや教師がその作成に意識的に取り組むことについて、各種理論を紹介し、風越学園及び岩瀬氏が公立小学校教諭時代に行っていた実践記録などを基に、具体的に分かりやすく参加者に説明していただいた。対話を生み出すために「まぜる」ことの大切さや子どもたちに失敗と再チャレンジをする場を保証し、自己決定することを支援していく取組は公立学校でも十分できることを演習を数多く取り入れながら研修を進めていただいた。

参加者は、年齢や職種を混ぜて設定したグループに分かれて、自らの実践や悩みを語り合ったり、実際の風越学園の授業の様子を「カード観察法」を使って、学習者を見る視点を模造紙にまとめて話し合ったりするなど、深く学び合う姿が随所に見られたりするなど、終始充実した研修となった。なお、年間計画の変更申請をした通り、当初予定していた会場を愛媛大学（松山市）から今治市・FC 今治が所有するアシックス里山スタジアムに変更して実施した。これは、愛媛県内だけでなく県外からの参加希望が多かったことで交通の利便性を考えたこと、また、2回目の研修で企画していた学びのコミュニティづくりに繋げるために、愛媛県内でも自主的な学習の場づくりに熱心な若手教員が多く所属しているのが愛媛県東予地域をフィールドにしていたためである。結果、県内各地域はもとより県外からも学生を含む、多くの教育関係者に参加していただき、実りある研修を実施することができた。

1回目の研修だけで終わるのではなく、持続的な学びの場を創り上げていく必要性を感じていたため、当初より2回目を実施することとしていた。計画を立てた段階では、講師の岩瀬氏には2回目はオンラインでの講義をお願いしていたが、1回目の研修時の参加者の熱量の多さや主体的に学び取る姿に感銘を受けられ、協議により2回目も岩瀬氏に愛媛に来ていただき、実施することにした。2回目（1月26日）の研修は、ただ岩瀬氏に講義をしてもらうだけでなく、愛媛の教員で自主的に学びのコミュニティを創り出そうと動いている2名の教員（公立小学校教員、私立高等学校教員（元・公立小学校教員））に話題提供ということで、自らの実践状況を報告してもらい、参加者がその実践を通して意見交換をし学び合うというスタイルを前半にとった。それぞれに立場や

置かれた状況の中、学級経営や学習者である子どもたちを主体にするための手立て、教員自身が学習者であることを意識した学びのコミュニティづくりを紹介してもらい、参加者も大きく感化されている様子であった。後半は、岩瀬氏による講義をしていただき、学校の内外に学びのコミュニティを創り出すことについて、ご自身が取り組まれている軽井沢風越ラーニングセンターでの教員研修などを紹介していただきながら、学びのコミュニティづくりのポイントについて、詳細にご講義いただくことができた。

2 回目の研修を実施したことにより、早くも参加者同士で学びのコミュニティを作る動きが見られ、想定していた以上の成果を収めることができた。今後も持続的に実践を報告し合いながら、愛媛に学びのコミュニティを浸透させていくことを確認できたことも大きな収穫であった。本事業を実施したおかげであり、大きく感謝している。

成果：（成果として、2 回目の研修を終えた（2 回とも参加した方の）感想を示す。）

・校内でのコミュニティづくりについて、とても知見が深まりました。わかばの取り組み真似したいな—と思いました！研修を打つ側と参加者というわけではなく、全体を参画者にしていくというのがとてもすごいな—と感じました。真似します！！

・私自身の日常生活での友達に対する声掛けや呼びかけと関連するものがあり、講演のようなより大きな規模で取り組まれている先生方を見て自信をいただきました。今あるコミュニティを大切にしながら、校内や校外に発信したいと思いました。

・職員の人間関係づくりが重要であることを確認できた。今、若い世代が増えて、悩みを抱えた教員も多いと思う。本当に何でも言い合える関係は、自然には出来にくいので、意図的に構築しなければならないと思う。その方法の一つを学んだ。ありがとうございました。

・私は、岩瀬先生の話聞き、職場の中に学びのコミュニティをいかに作り出していくか、どんな働きかけを行なっていくのか、について、4 つのアプローチを教えてもらったので、やっていきたいと思います。ありがとうございました。

・岩瀬さんのお話を聞くことをとても楽しみに参加しました。従来の研修観から脱却し、教師がワクワクしながら主体的に学ぶ研修へと変換していくことの素晴らしさについて、体験を取り入れながら進めていただいたことで、実感を伴い学習することができました。また、自分自身と価値観が異なる同僚も同じ仲間として真摯に向き合う岩瀬さんの姿勢は、教職員の研修が充実するという成果はもちろんのこと、目の前の子どもたちに協働性を育む上でも非常に重要であると感じました。

・本当に感謝しています。会の中でも少し話しましたが、少し前までの私は「参加したい！混ぜて欲しい！」という心持ちでした。それで満足して、何なら学ぶために外に出て自分えらい！くらいに思っていました。そんなとき、今回の研修会の中で「巻き込む側になって、仲間を 1 人でも増やして欲しい」と言われ、自分が怠けていた、仲間を増やすことに怖がっていたことを見抜かれ、痛いところを突かれたと正直苦しかったです。ただ、そのことをきっかけに、自分も巻き込む側へと一歩踏み出すことができました。今回の宮谷先生のお話を聞いて、「自分も仲間作りをしたい！イベントをしたい！」と思えたこと、自分にとってすごく大きな変化でした。宣言したからには実現したいです！

・理想の学びの場をつくるために 4 つの視点を提示していただきましたが、その中でも特に「学び手になってみる」というところから始めようと思いました。それを同僚教師や学びの同志たちと一緒にやってみることで、対話文化が醸成され、それが入れ子構造にもなり、やがて実践コミュニティになっていくというイメージです。「一緒に学び手になってみる」というのは、校内研修でも誘いやすいものだと思いますので、まずはそこからです。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

本事業では、「NITS からの提案」の中でも特に、③豊かな気付きが醸成される学び、④探究型研修、⑤学び合いのコミュニティを企画して実施した。子どもの「学びの相似形」として教師の研修が重要であることを意識し、2 回の研修を経て、参加者自身が学びのコミュニティを創り出すような研修を心掛けた。講師の岩瀬氏に研修のファシリテーターになっていただき、参加者一人一人の思いを具現化するようなプロジェクト的な研修スタイルを行った結果、実際に学校内・学校外で学びのコミュニティを作る動きが具現化している（愛媛県今治市、新居浜市）。本事業を通して、参加者である教師の研修観が大きく変化していく様子を確認することができた。今後は教職大学院が教育委員会と連携し、フォローアップしていく仕組みを醸成していく必要があると感じている。

アイディアや工夫したこと：

- ・ 同じ講師に複数回、研修講師をお願いすることで、継続した学びを提供することができた。
- ・ 2 回目は県内教員が、自分の実践を話題提供する内容を取り入れたことで参加者の参画意識が向上した。
- ・ グループ構成を年齢、経験年数、職種などを敢えて混ぜて編成した。



（1 回目の研修の様子）



（2 回目の研修の様子）